

# Birth order and paediatric allergic disease: A nationwide longitudinal survey.

出典	Clin Exp Allergy 2018;48(5):577-585 ( <a href="https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/2936835/">https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/2936835/</a> )
著者	Kikkawa T et al.
調査地域	全国
調査時期	2001年～2015年
調査対象	2001年1月10～17日と2001年7月10～17日に出生した児
依頼数	53,575人
有効回答数 または回収率	88%(47,015人)
診断方法	保護者の申告
有症率	4.7%(6-18mo), 2.4%(18-30mo), 1.6%(30-42mo), 1.4%(42-54mo), 1.4%(54-66mo), 1.1%(66mo-7y), 0.84%(7-8y), 0.84%(8-9y), 0.74%(9-10y), 0.94%(10-11y), 0.77%(11-12y)
調査概要	全国で行われた出生コホート研究。生後6か月～12歳までのアレルギー疾患の期間有症率を追跡し、出生順（第一子、二子、三子）で比較した論文。FA有症率は1歳以降年齢が高くなるほど低く、また出生順が遅いほど低くなる傾向があった。